

令和7年度 高花平こども園 自園評価

◎—よくできている ○—ほぼできている △—努力が必要 —該当なし

1・保育理念

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
こども園の理念、目標、方針を保護者に知らせている。	○	園見学時には「入園のしおり」を用い、入園説明会では重要事項説明書に基づいて、理念・目標・方針を全保護者へ口頭で説明した。さらに、運動会や生活発表会でも、園が大切にしている考え方を伝えた。

2・保育計画

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育計画を作成し、見直しをもった保育を実施している。	○	幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、教育・保育課程、年間指導計画、月案、週案を作成し、見直しをもって保育を実施した。
年間計画、年間行事の見直しをしている。	○	子どもが主体的に活動でき、保護者が子どもの成長を実感できるよう、年間計画および年間行事を継続的に見直した。

3・人権尊重

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
子どもの人権が尊重され、大切にされていると感じる。	○	家庭環境や子どもの思いを受け止め、子どもが自分を表現できるよう、丁寧な関わりを心がけた。また、大人の思いや考えを一方向的に押し付けないよう努めた。

4・個人情報保護

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
個人情報の扱いについて入園時等で説明する。	○	入園時に個人情報の取扱いを説明した。個人情報を含む書類は施錠できる書棚に保管し、園内研修を通して守秘義務を全職員へ周知した。
業務上で知り得た子どもの情報に関する守秘義務について全職員で周知する。	◎	
保護者からの相談の内容の守秘義務について全職員で周知する。	◎	

5・保育内容

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
遊びに入れない子どもや、全体の様子に気を配っている。	◎	一人ひとりの子どもに丁寧にに関わり、指示・命令・禁止を中心とした言葉かけを避け、子どもの気持ちを受け止めたうえで言葉をかけるよう心がけた。
子どもがのびのびと意見や意思が表現できるような保育が行われている。	○	子どもの気持ち・意見・考えを大切に、サークルタイムを通して意見を表現する機会を設けた。一方、意思決定が多数決に偏ることが多いため、少数意見も取り上げながら合意形成の方法を工夫する必要がある。
遊びを通して、友達や保育者との関わりが十分持てるよう配慮されている。	◎	保育者も遊びを楽しみ、子ども同士や保育者との遊びの輪が自然に広がるよう援助した。
遊びや生活を通して人間関係が育つような配慮をしている。	◎	クラスや異年齢での遊び・生活を通して、人間関係を育んだ。集団に入りにくい子どもには、臨床心理士の助言を踏まえ、無理強いせず段階的に集団との距離を縮められるよう支援した。
身近な自然や社会と関わるような取り組みがなされている。	◎	園庭での遊びや生活を通して、草木や生き物など身近な自然に触れる機会を設けた。
園の行事や保育の内容などが知らされている。	○	園日よりクラスだよりに加え、0・1歳児は連絡ノート、2歳児以上はブログを用いて日々の保育の様子を伝えた。また、未満児は年2回、以上児は年1回の保育参加を実施した。

6・保育環境

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
園内外が清潔で心地よい空間となっている。	○	室内に物が多く、落ち着いて過ごすための空間に改善の余地がある。発達への配慮を前提として、以上児クラスのコーナーの共通化や配置の効率化を検討する。
年齢に応じた保育が提供できる環境である。	○	発達や年齢を考慮し、子どもが好きな遊びを十分に楽しめる環境を構成した。今後も、より心地よい空間となるよう継続して見直す。
子どもが落ち着いて過ごせるよう、保育室の雰囲気やおもちゃが工夫されている。	◎	子どもの手が届く場所に、年齢・発達に合った玩具を準備した。遊びのコーナーを設け、子どもが好きな遊びを十分に楽しめる落ち着いた空間づくりを進めた。

7・特別な支援を要する子どもへの対応

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	○	子どもが困っている状況を保育者間で共有し、臨床心理士、巡回相談、就学相談で得た助言を踏まえ、保護者と支援方針を共有しながら保育を行った。

8・保護者支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
意見や要望などへの対応ができています。	○	保育参加や懇談会などを通して保護者の意見や要望を把握し、その内容を職員間で共有して対応した。
職員が子育て等、話しやすい雰囲気や態度で接している。	○	保護者と子どもに笑顔で挨拶し、登降園時には子どもの遊びや生活の様子を具体的に伝えた。また、保護者の思いを丁寧に聴き、相談しやすい対応を心がけた。

9・安全対策・健康管理

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育中の体調への気配りや怪我等に対して配慮されている。	○	事故やけがを予防するために保育環境を点検し、保育者同士で声をかけ合いながら子どもの行動を見守った。
感染症の発生状況や注意事項などが知らされている。	◎	感染症の発生時には、園内掲示とLINE配信により、発生状況や注意事項を保護者へ周知した。
子どもの成長を把握している。	◎	年2回の健康診断と毎月の身体測定を実施し、その結果を保護者・保育者・栄養士で共有した。
不審者対策を行っている。	○	正門・通用門で来訪者を確認しやすい環境を整えとともに、セコムの緊急通報装置を設置し、不審者の侵入に備えた。

10・給食

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
給食が楽しく食べられるよう工夫されている。	◎	旬の食材や自園栽培の野菜を取り入れ、食への関心を高めた。未満児・3歳児は遊びが一段落した子どもから食事に誘い、4・5歳児は空腹を感じた子どもが自らランチルームへ移動できるようにした。食事のマナーや食材についても知らせた。
食育を通して子ども達が食に興味をもてるようにする。	◎	年間の食育目標に基づき、行事食や食文化を取り入れた食育を継続的に実施した。
子どものサインを見逃さないようにしている。	◎	食事を無理強いせず、体調や友達との関係など、子どもの様子を観察しながら援助した。
アレルギー除去食の対応。	◎	対象児と除去内容を把握し、専用トレイ・食器を使用した。配膳時は複数職員で確認し、除去食の内容を保護者・保育者と共有した。
衛生管理の徹底。	◎	衛生管理マニュアルに基づき、手洗い、白衣・帽子・マスクの着用、調理室内の清掃を徹底した。

11・地域支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
地域との関係が適切に保たれている。	◎	日頃の挨拶に加え、中学校区校園長会での情報共有、地区06会議への参加、主任児童委員の定期訪問を通して、地域の関係機関と連携した。
地域の子育て支援や交流に取り組んでいる。	◎	子育て支援センターで育児支援・交流の機会を設け、利用する保護者の思いを聴きながら支援した。

12・職員育成

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
職員の質の向上に努めている。	○	職員が研修を受講する機会を設け、学んだ内容を園内研修で全職員に共有した。また、業務が一部の職員に偏らないよう、職員間で助け合い、話し合って職務を進めた。
社会人としての振る舞いを指導している。	○	適切な言葉遣いで来客・電話に対応することを職員へ伝えた。また、職員が自らの仕事に誇りをもてるよう声をかけた。

園全体の評価

・保育参観を実施し、保護者と保育者が園での子どもの姿を共有する機会をもつことができた。
 ・使用済み紙おむつを密封する機器「エコムシュウ」を導入し、衛生環境が改善した。
 ・行事では、保育者が成果を見せることを優先する場面が見られた。子どもの主体性をより反映できるよう、運動会や生活発表会の内容・進め方を見直す必要がある。

来年度の課題

・子どもの意見を計画段階から取り入れ、主体的に参加できる行事の内容・進め方を検討する。
 ・困難な状況にある子どもや家庭の状況を職員間で共有し、関係機関との連携を含めた支援方法を検討する。